

令和 2年度

業務設計書（公示用）

業務名：（仮称）北部事業予定地一般廃棄物最終処分場搬入路調査検討業務

令和 2年 4月 単価適用

環境局環境事業部施設管理課

業務説明書

1. 概要

本業務は、一般廃棄物最終処分場の建設に係り、基本計画で定められた搬入道路ルート上にある河川横断部の構造について比較（仮橋、BOX）を行い最適な構造を選定・検討する。また、その基礎資料として現況河川流下能力の検討、地質調査、軟弱地盤解析も行うものである。

2. 場所 札幌市東区中沼町127番地ほか

3. 期間 契約書に示す着手の日から令和 2年12月20日までとする。

4. 図面 1 枚（地質調査位置図）

5. 仕様書 札幌市土木設計業務共通仕様書、札幌市地質・土質調査業務共通仕様書、その他関係資料並びに別添特記仕様書による。

6. 特記仕様書 別添のとおり。

(仮称) 北部事業予定地一般廃棄物最終処分場搬入路調査検討業務

本仕様書は、札幌市（以下「甲」という。）が計画する「(仮称) 北部事業予定地一般廃棄物最終処分場搬入路調査検討業務」に適用する。

第1章 共通仕様書

1 目的

本業務は、(仮称) 北部事業予定地一般廃棄物最終処分場の建設に係り、基本計画で定められた搬入道路ルート上にある河川横断部の構造について調査及び比較（仮橋、BOX）を行い最適な構造を選定・検討する。また、その基礎資料として現況河川流下能力の検討、地質調査、軟弱地盤解析も行うものである。

2 業務の名称

「(仮称) 北部事業予定地一般廃棄物最終処分場搬入路調査検討業務」

3 業務の場所

「札幌市東区中沼町 127 番地ほか」

4 委託の期間

契約締結日より令和 2 年 12 月 20 日まで

5 成果品

本業務の成果品は次のとおりとする。なお、成果品の作成にあたっては事前に担当者と協議する。

- (1)製本した報告書・図面等：2部
- (2)電子媒体：正・副各1枚

6 業務管理

- (1)受注者（以下「乙」という。）は、業務の円滑な進捗をはかるため十分な経験を有する主任技術者を定め、業務の全般について技術的な管理を行わせなければならない。
- (2)主任技術者は技術士（衛生工学部門 廃棄物管理）の資格を有するものとする。
- (3)乙は、契約後すみやかに業務計画書を作成し、甲に提出して承諾を得なければならない。
- (4)本業務についての打合せ及び協議事項は、全て議事録を作成し、甲に提出するものとする。

7 資料の貸与

甲は、業務に必要な資料を所定の手続きによって貸与するものとする。

8 法令等の遵守

本業務の実施にあたっては「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」をはじめとする関係法令等を遵守しなければならない。

9 秘密の保持

乙は、業務の遂行上知り得た秘密を第三者に漏らしてはならない。また、コンサルタントとしての中立性を遵守しなければならない。

10 関係機関との協議

乙は、本計画の内容について関係する官公署との協議を必要とするとき、または協議を求めら

れた場合、その対応を行うものとする。

11 質疑の解釈

業務の遂行において仕様書等に明示されていない事項があるときは、双方協議して定めるものとする。基本事項となるもの、技術上必要と認められる軽微なものについては、乙の責任において行うものとする。

12 検査及び引渡

本業務は、甲の検査合格をもって完了とする。なお、納品後に乙の帰すべき理由による不備または誤りが発見された場合は、責任を持って速やかに訂正しなければならない。

13 提出書類

乙は、業務の着手および完了にあたって、次の書類を提出しなければならない。

(1)業務着手時

- ① 業務着手届
- ② 主任技術者選任届（経歴書及び資格証の写し添付）
- ③ 業務工程表

(2)業務完了時

- ① 業務完了届
- ② 成果品目録
- ③ 成果品受渡書
- ④ 請求書

第2章 特記仕様書

第1節 地質調査

別添「地質調査特記仕様書」による

第2節 軟弱地盤解析

1. 業務目的

本業務は、基本計画で定められた搬入道路形状において既往資料及び第1節で得られた調査結果をもとに、道路盛土横断及び縦断方向のすべり安定性の検討、沈下量計算、対策工等の軟弱地盤解析を行うことを目的とする。

2. 業務範囲

本業務の作業範囲は、次のとおりとする。

- (1)解析計画
- (2)現況地盤解析（円弧滑り解析）
- (3)現況地盤解析（圧密沈下解析）
- (4)検討対策工法の決定
- (5)対策後地盤解析（円弧滑り解析）
- (6)最適工法の決定
- (7)照査
- (8)打合せ協議

3. 業務内容

- (1)解析計画
既往資料を基に解析の基本条件の整理・検討を行なう。
- (2)現況地盤解析（円弧滑り解析）
対策前の円弧滑り解析：2断面
- (3)現況地盤解析（圧密沈下解析）
対策前の圧密沈下解析：1断面
- (4)検討対策工法の決定
道路盛土押さえ盛土幅を決定する。
- (5)対策後地盤解析（円弧滑り解析）
対策後の円弧滑り解析：2断面
- (6)最適工法の決定
対策後の検討結果を踏まえ最適な盛土形状を決定する。
- (7)照査
設計条件、設計手法等について適切であるかの照査を行なう。
技術士（衛生工学部門—廃棄物管理）の資格を有する者が実施すること。
- (8)打合せ協議
第6節参照

第3節 仮橋予備設計

1. 業務目的

本業務は、基本計画で定められた搬入道路ルート上にある河川横断部について、仮橋形状とした場合の予備設計を行うことを目的とする。

2. 業務範囲

本業務の作業範囲は、次のとおりとする。

- (1)現地踏査
- (2)設計計画
- (3)設計計算
- (4)設計図
- (5)概算工事費
- (6)照査
- (7)報告書作成
- (8)打合せ協議

3. 業務内容

- (1)現地踏査
予定地周辺の地形、土地利用状況等を確認する。
※第4節に含む
- (2)設計計画
設計計画、設計条件の確認、基本事項の検討を行う。また、橋梁形式比較案の選定は栈橋形式1案とするため、実施しない。
- (3)設計計算
上部工の概算応力計算及び概略断面検討、下部工、基礎工の形式規模を想定し、概算の応力計算及び安定計算を行う。
- (4)設計図
一般図を作成する。
- (5)概算工事費
概算数量を算出し、それを基に概算の工事費を算出する。
- (6)照査
設計条件、設計手法等について適切であるかの照査を行なう。
技術士（衛生工学部門一廃棄物管理）の資格を有する者が実施すること。
- (7)報告書作成
前項までの検討結果を整理し報告書を作成する。
- (8)打合せ協議
第6節参照

第4節 BOX 予備設計

1. 業務目的

本業務は、基本計画で定められた搬入道路ルート上にある河川横断部について、BOX 形状とした場合の予備設計を行うことを目的とする。

2. 業務範囲

本業務の作業範囲は、次のとおりとする。

- (1)設計計画
- (2)現地踏査
- (3)設計条件の確認
- (4)比較形式選定
- (5)概略設計計算
- (6)基礎工検討
- (7)概略設計図
- (8)関係機関との協議資料の作成
- (9)概算工事費
- (10)比較一覧表作成

- (1)照査
- (2)報告書作成
- (3)打合せ協議

3. 業務内容

- (1)設計計画
基本条件の整理・検討、打合せ資料を作成する。
- (2)現地踏査
予定地周辺の地形、土地利用状況等を確認する。
- (3)設計条件の確認
予備設計を行う上での詳細条件を確認する。
- (4)比較形式選定
一般に考えられる形式について既存資料等を参考に3案程度選定する。
- (5)概略設計計算
比較案について概略の安定計算・応力計算を行い、断面形状を決定する。
- (6)基礎工検討
本体工に応じて考えらえる基礎工数案について概略検討を行う。
- (7)概略設計図作成
構造物の形状・寸法の分かる図面を作成する。
- (8)関係機関との協議資料の作成
関係機関との協議資料について作成する。
- (9)概算工事費
主要な工種について概算材料を算出し、概算の工事費を算出する。
- (10)比較一覧表作成
検討した比較案について一覧表を作成する
- (11)照査
設計条件、設計手法等について適切であるかの照査を行なう。
技術士（衛生工学部門—廃棄物管理）の資格を有する者が実施すること。
- (12)報告書作成
前項までの検討結果を整理し報告書を作成する。
- (13)打合せ協議
第6節参照

第5節 流下能力検討

1. 業務目的

本業務は、基本計画で定められた搬入道路ルート上にある河川について、現況流下能力の検討及び横断部を管渠とした場合の断面設定、沈下対策検討の基本設計を行うことを目的とする。なお、検討にあたり必要となる河川部局との協議資料作成は第4節に含むものとする。

2. 業務範囲

本業務の作業範囲は、次のとおりとする。

- (1)設計計画
- (2)現地踏査
- (3)基本事項の検討
- (4)流下能力の検討
- (5)管渠断面の設定
- (6)沈下対策の検討
- (7)設計図
- (8)数量計算

- (9)概算工事費
- (10)照査
- (11)報告書作成
- (12)打合せ協議

3. 業務内容

(1)設計計画

検討を行うにあたり、必要となる既存資料等を収集、整理し内容等を把握する。また、打合せ資料を作成する。

(2)現地踏査

予定地周辺の地形、土地利用状況等を確認する。

※第4節に含む。

(3)基本事項の検討

流下能力の検討及び管渠断面の設定を行うにあたり、基本条件を整理する。

(4)流下能力の検討

既往資料から現況断面における流下能力を設定する。

(5)管渠断面の設定

設定した現況流下能力及び地形等から必要となる管渠断面を設定する。

(6)沈下対策の検討

現況地盤が軟弱のため、道路盛土により管渠の沈下が見込まれるため、その対策を検討する。

(7)設計図

検討した結果を反映した基本設計図を作成する。

(8)数量計算

検討した管渠断面、対策工に係る概算の数量計算を行う。

(9)概算工事費

算出した概算数量による概算工事費を算出する。

(10)照査

設計条件、設計手法等について適切であるかの照査を行なう。

技術士（衛生工学部門—廃棄物管理）の資格を有する者が実施すること。

(11)報告書作成

前項までの検討結果を整理し報告書を作成する。

(12)打合せ協議

第6節参照

第6節 打合せ協議について

各業務の打合せ協議の詳細は、以下のとおりとする。なお、これらの他に打合せ協議の必要が生じた場合は、適宜対応するものとする。

	初回打合せ	中間打合せ	最終打合せ	関係機関協議
地質調査	1回	1回	1回	-
軟弱地盤解析		1回		-
仮橋予備設計		1回		-
BOX予備設計		1回		1回
流下能力検討		1回		1回

※関係機関協議：札幌市下水道河川局事業推進部河川管理課

地質調査特記仕様書

1. 受託者は、各調査地点の位置及び調査順序等の詳細について、事前に担当職員と協議すること。
2. 受託者は、調査にあたり、私有地等を使用するときは事前に担当職員と協議すること。
3. 受託者は、作業の進捗状況を担当職員に報告すること。
4. 作業日報には、試験項目、進捗率、職種別作業人員及び使用機器等の作業内容を記載し調査完了時に担当職員に提出すること。
5. ボーリング作業を行うにあたり、事前に地下埋設物を調査し損傷を与えないよう特に注意するとともに、作業区間の安全確保に万全を期し、事故防止に努めること。
6. ボーリングは、一孔完了ごとにその深度等の確認のため、担当職員の立会いまたは、写真等により検査を受けることとする。
7. ボーリングによって得られたコアサンプリングは、深度を記載し標本箱に順序正しく整理し、提出すること。
8. 調査により開けられたボーリング孔は、担当職員の立ち会い検査後必ず砂等により充填すること。
9. 作業を完了したボーリング地点には、孔番、深度、完了年月日及び受託者を明記した標識を設置し、その位置を明確にするものとする。また、業務完了検査後は速やかに撤去すること。
10. 土質室内試験を行うときは、室内試験従事者と現場試験従事者とが常に正確な情報をもってその試験にあたるものとする。また力学試験に用いる資料は、乱れが生じない採取方法、運搬方法及び保存方法により行わなければならない。
11. 地質構成の判定及びその他解析業務等は、事前に担当職員と十分協議を行うこと。
12. その他、調査に必要な項目は、担当職員と協議を行い決定する。
13. ボーリング柱状図については、次頁以降の作成要領に準拠すること。

【ボーリング柱状図作成要領】

本要領は、「ボーリング柱状図作成要領（案）解説書」（建設省大臣官房技術調査室監修）に基づき、ボーリング調査において作成する柱状図の作成要領である。その記入要領は次による。

1. 調査名

調査名は、「(仮称) 北部事業予定地一般廃棄物最終処分場搬入路調査検討業務」と記入する。

2. 事業・工事名

業務名が地区名等で決められている場合、発注業務名だけではどの工事の調査であるのか不明であることが多いので、幹線番号や幹線名がある場合には記入すること。

3. ボーリング No. (コード番号)

本市は特に記入の必要はない。

4. ボーリング名

ボーリング名は発注図に添付している（凡例）ボーリング名を使用することとする。

例) B—— 新設ボーリング ————— B-1 (H-10), B-2 (H-10)

B—— 既存ボーリング ————— B-1 (H-6) , B-2 (H-6)

D—— 新設オランダ貫入試験 ————— D-1 (H-10), D-2 (H-10)

D—— 既存オランダ貫入試験 ————— D-1 (H-6) , D-2 (H-6)

注) (H-○) : 平成, (S-○) : 昭和

5. 調査位置, 緯度, 経度

調査位置については、調査現場の地名（区、地区名、条丁目、番地）を記入する。

緯度・経度については、国土地理院 1/25,000 地形図より、孔口の緯度・経度を 1 秒単位まで求め記入する。国土基本図、あるいはその他の大縮尺地形図等があればそれらをもとに 1/10 秒単位まで記入する。なお、1 秒は 1/25,000 地形図上では約 1 mm の長さとなるが、緯度によって異なるので地点ごとに求める。

6. 発注機関

発注機関は、「札幌市環境局環境事業部施設管理課施設計画係」と記入する。

7. 調査期間

調査期間は、「業務開始の日から〇〇日間」または「令和〇〇年〇月〇日まで」と記入する。

8. 調査業者名等

調査業務名、主任技師、現場代理人、コア鑑定者、ボーリング責任者を必要項目について記入する。

9. 孔口標高

孔口標高 H を測量結果に基づき、1/100m 単位まで記入する。

10. 総掘進長

総掘進長は調査対象となるボーリング区間を 1/100m 単位まで記入する。

11. 角 度

角度は、鉛直線となす角度を図 2-1 の例によって記入する。

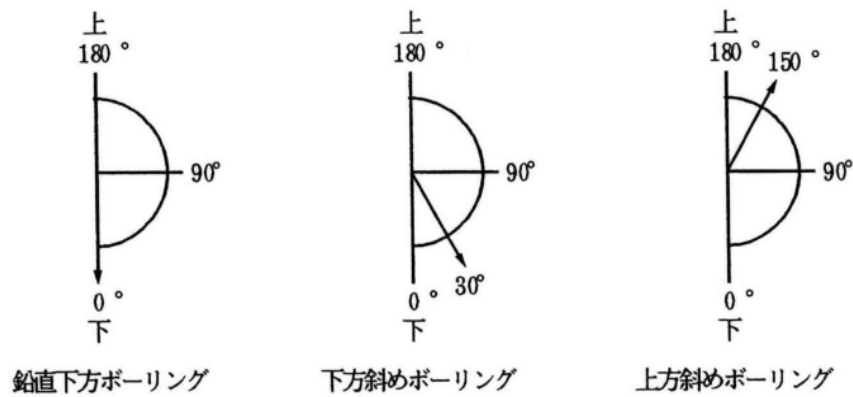


図 2-1 ボーリングの角度の表示例

なお、角度は孔口における掘進角度を記入し、穴曲り計測を行った時には、その結果を原位置試験の欄に記入する。

12. 方 向

方向については、斜めボーリングの時に記入し、掘進の方向を真北より右回り 360° 方位法で図 2-2 の例のように示す。なお、方向は孔口における掘進方向を記入し、穴曲り計測を行ったときは、11. と同様とする。

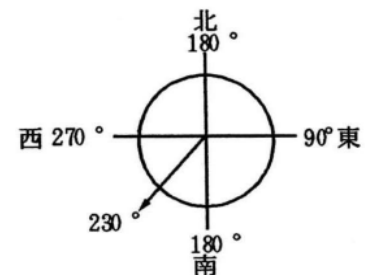


図 2-2 ボーリングの方向

13. 地盤勾配

地盤勾配は、下方ボーリングのみについて、孔口を中心に傾斜上下方向各々5m程度の範囲の平均勾配を図 2-3 のように記入する。地盤勾配は、作業能率、穴曲り等に影響するので掘進の記録として残すものである。

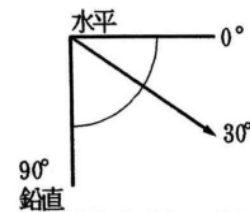


図 2-3 地盤勾配の表示例

14. 使用機種

使用機種については、試錐機、エンジン、ポンプのメーカー名、型式記号、能力について記入する。

ハンマー落下用具は、トンビ、コーンプリーまたは自動落下の区別を記入する。

15. 標 尺

標尺は、孔口を起点に 1m 毎に記入する。縮尺は 1/100 を原則とする。

16. 標 高

標高については、19. の土質区分毎にその標高を記入する。斜めボーリングについても標高を求め記入する。

17. 深 度

深度については、土質区分毎にその孔口からの距離をもとに記入する。

18. 層 厚

層厚は、土質区分毎の区間長を記入する。

19. 柱状図，土質区分

柱状図及び土質区分は，日本統一土質分類を基調に図2-4によって下記に留意し記入する。

第1分類			第2分類			第3分類			
区分	分類名	図模様	区分	分類名	図模様	区分	分類名	図模様	
土質材料	礫 (G)	○ ○ ○	補助記号	砂質 (S)	////	岩石材料	岩盤	硬岩 (HR)	
	礫質土 (GF)	○ ○ ○ ○ ○		シルト質 (M)	////			中硬岩 (MR)	
	砂 (S)	● ● ● ● ●		粘土質 (C)	////			軟岩, 風化岩 (WR)	
	砂質土 (SF)	● ● ● ● ●		有機質 (O)			玉石 (B)	○ ○	
	シルト (M)	-----		火山灰質 (V)	~~~~~		浮石(軽石) (Pm)	△ △ △	
	粘性土 (C)	====		玉石混り (-B)	○ ○ ○ ○ ○		シラス (Si)	△ △ △ △ △	
	有機質土 (O)			砂利, 礫混り (-G)	● ● ● ● ●		スコリア (Sc)	▲ ▲ ▲	
	火山灰質粘性土 (V)	~~~~~		砂混り (-S)	● ● ● ● ●		火山灰 (VA)	~ ~ ~ ~ ~	
	高有機質土 (Pt)			シルト混り (-M)	-----		ローム (Lm)	△ △ △ △ △	
				粘土混り (-C)	////		黒ボク (Kb)		
		有機質土混り (-O)			マサ (WG)				
		火山灰混り (-V)		~~~~~	表土 (Ss)	XXXX			
		貝殻混り (-Sh)		○ ○ ○ ○ ○	埋土 (FI)	XXXX			
				廃棄物 (W)	XXXX				

図2-4 土質柱状図記号

- ① 土質については第1分類によって記入し，必要に応じて例えば図2-5のように第2分類との組合せとする。

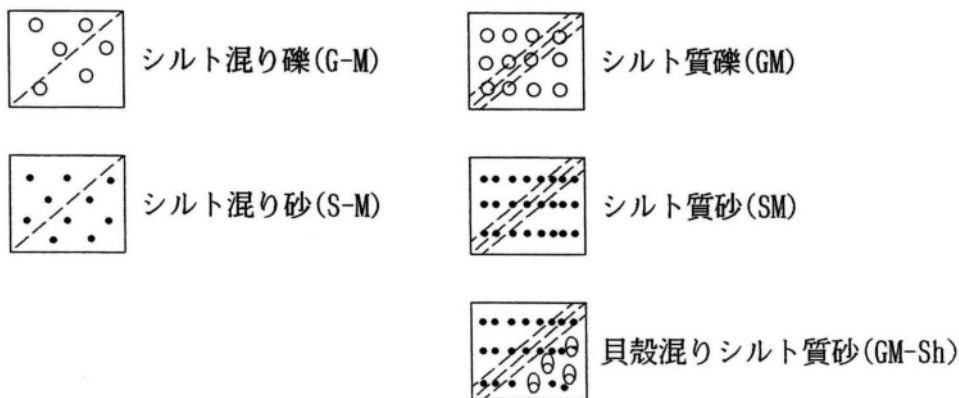


図2-5 第1分類と第2分類の組合せの例

- ② 互層については，おおよその構成比によって欄を縦割にし，図2-6の例のように記入する。

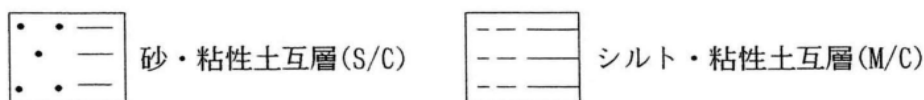


図2-6 互層の表示例

- ③ 土質のうち，特殊土，岩盤，玉石については，第3分類によって記入する。
- ④ 表土，埋土，廃棄物については第3分類を用いて記入し，記事の欄に土質材料等を記載する。

20. 色 調

色調は、明るい自然光の中で、湿潤状態で観察する。表現に用いる色は「黒・褐・赤・橙・黄・緑・青・紫・白」を基本色とし、基本色以外は基本色の組み合わせ（原則として2色）とする。基本色の組み合わせは主色の前に従色を冠する。また、必要に応じて「濃」及び「淡」の形容詞をつけると共に、黒味を帯びる時は「暗」の形容詞を付ける。従色が特に微弱な時は「帯」の形容詞を付ける。礫岩など雑多な色を呈する時は何色と何色の「雑色」、色が混じっている時は何色と何色の「斑色」とする。

この他、赤白色は桃色、褐色は茶色等慣用的な表現を用いた時が適切な時は、それらを用いてよいこととする。

21. 相対密度，相対稠度

相対密度及び相対稠度は、表2-1～2-3を参考にする。

表2-1 砂地盤の相対密度の表現法

相 対 密 度	N 値
非常に緩い	0～4
緩い	4～10
中ぐらい	10～30
密な	30～50
非常に密な	50以上

表2-2 粘土地盤の相対稠度の表現法

相 対 稠 度	N 値
非常に軟い	0～2
軟い	2～4
中ぐらい	4～8
硬い	8～15
非常に硬い	15～30
特別に硬い	30以上

表2-3 細粒土の相対稠度区分と状態表現

状態表現	現場における判別方法 (原位置土に対する親指試験)
軟らかい	親指をたやすく押し込める
中位	かなり力を入れないと親指は押し込めない
硬い	親指でへこませることはできるが、親指を貫入させるには大きな力を要する
非常に硬い	親指の爪はたやすく入る
固結した	親指の爪も入らない

22. 記事

記事には次のようなものを深度と共に記入するが、ボーリングの目的に応じて適切な観察を行い、適切な記事を記入する。

地盤の地質年代的区分

沖積層，洪積層等

① 地盤の成因的区分

表土，崖錐堆積物，段丘堆積物，火山噴出物，土石流堆積物，泥石流堆積物，風化岩及び盛土廃棄物等

② 土質の特徴

粒度構成，礫の形態，腐植質，有機質，貝殻，含水状態等

③ 掘進作業における特記事項

23. 空欄

空欄は，その他の組織的に区分し記載する事項があればそれについて記入する。

欄が不足すれば，記事の欄を利用して設けるとよい。

24. 孔内水位

孔内水位欄は，原則として自然水位Hを記入し，測定月日を併記する。

25. 標準貫入試験

標準貫入試験は，深度，10 cm毎の打撃回数／貫入量を記入する。N値については，折れ線グラフを用いて表す。

26. 原位置試験

原位置試験は，物理検層，孔内載荷試験等の試験について，試験深度，試験名及び試験結果を記入する。なお，試験結果については，本様式が合わないときは別途柱状図様式を作成して記入するものとする。

27. 試料採取

試料採取は，採取深度，試料番号，採取方法について記入する。

28. 室内試験

室内試験は比重試験，含水量試験，粒度試験，コンシステンシー試験，圧密試験，三軸圧縮試験等の室内試験を行ったものについて，その試験名，試験番号及び区間深度を記入する。

ただし，試験項目が多い場合には省略する。

29. 掘進月日

掘進月日は，日毎の掘進区間を記入する。

30. 試験等の記号例

表 1 - 5 原位置試験等の記号例

記号	原位置試験等の名称
S	標準貫入試験
L	孔内水平載荷試験
P _T	現場透水試験
P _w	間隙水圧測定
T	シンウォールサンプリング
D	デニソンサンプリング
T _r	サンドサンプリング

電子媒体での成果提出に関する特記仕様書（委託業務用）

本業務においては、成果品の一部を電子媒体で提出することができるものとする。電子媒体とそのデータの仕様等については下記のとおりとし、詳細は業務着手時に担当職員と協議すること。なお、データの仕様については、下記によらず、国土交通省等で定める電子納品関係基準・要領に従い納品することもできるものとする。

(1) 電子媒体で提出する場合の数量

製本した報告書・図面等：2部

電子媒体：正・副各1枚

(2) 電子媒体の仕様

CD-R 等

(3) データの仕様

1) 報告書，計算書，資料等

① ファイル形式

- ・オリジナルデータ【必須】

(使用ソフトについては、事前に担当職員と協議すること)

- ・PDFデータ

(オリジナルデータとあわせて提出すること)

2) 図面 (CADデータ)

① ファイル形式

- ・オリジナルデータ【必須】(図面作成に使用したソフトの形式)

- ・DXF形式【必須】(拡張子以外のファイル名は同じとする。)

② 使用する文字について

特定機種(ソフト)固有の文字は使用しないこと。

(3) 業務管理ファイル

以下に示す様式の業務管理ファイル(エクセル形式)を電子媒体に格納

カテゴリ	業務件名等			受注者情報	ソフトウェア情報(報告書等)①		ソフトウェア情報(CAD図面)			備考	
	項目名	TECRIS登録番号	業務番号	業務名称	受注者名	ソフトウェア名	バージョン情報	ソフトウェア名	バージョン情報		メーカー名
記入欄	※1	※2	※3	※4	※5	※6	※7	※8	※9	※10	

注1) 複数のソフトウェアを使用した場合は、ソフトウェア情報①の右側に“ソフトウェア情報②”，“ソフトウェア情報③”，…と列を追加して全て記入して下さい。

記入欄	記入内容
※1	TECRISセンターが発行する受領書に記載される番号を記入する。
※2	契約年度（西暦下2桁）と業務番号（4桁）を記入する。（例：2003年の業務番号10番→「030010」）
※3	契約上の正式な業務名称を記入する。
※4	企業名（正式名称）を記入する。
※5	報告書等のデータ作成に使用したソフトウェア名を記入する。
※6	ソフトウェアのバージョンを記入する。
※7	図面作成に使用したCADソフトウェア名を記入する。
※8	ソフトウェアのバージョンを記入する。
※9	ソフトウェアのメーカー名を記入する。
※10	メーカーの連絡先（住所、電話番号）を記入する。

（4）電子媒体に貼るラベル

以下の情報を媒体のラベルに明記

1	業務番号（契約年度（西暦下2桁）＋業務番号4桁）
2	業務名称
3	作成年月
4	発注者名（課名）
5	受注者名
6	ウイルスチェックに関する情報（下記（5）参照）

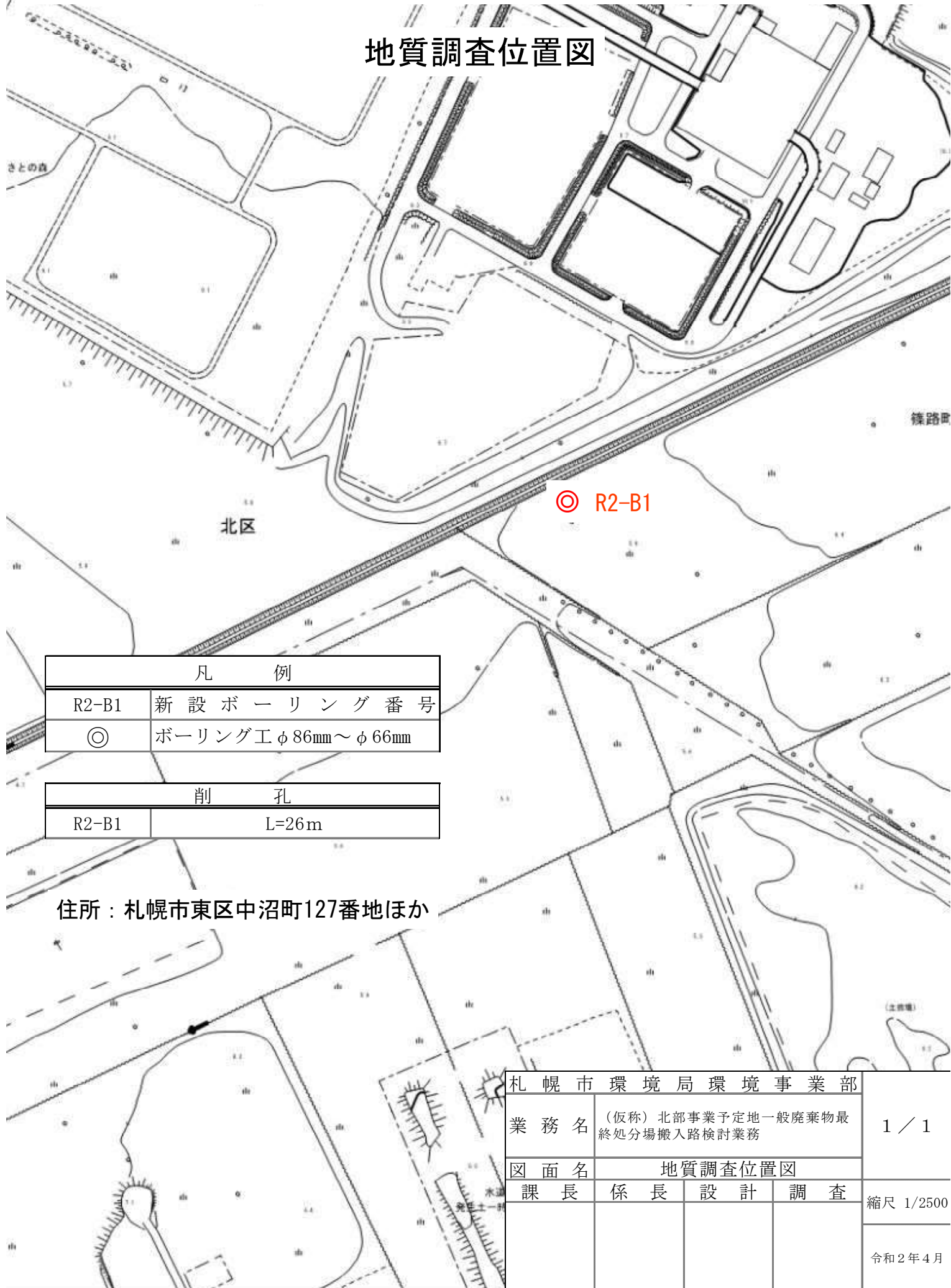
（5）ウイルス対策について

電子媒体提出前に、最新ソフトでのウイルスチェックを行い、納品する媒体のラベルにウイルスチェックに関する下記の情報を記載すること。

- ① 使用したウイルス対策ソフト名
- ② ウイルス（パターンファイル）定義年月日またはパターンファイル名
- ③ チェック年月日

(仮称) 北部事業予定地一般廃棄物最終処分場搬入路検討業務

地質調査位置図



◎ R2-B1

北区

凡 例	
R2-B1	新 設 ボ ー リ ン グ 番 号
◎	ボ ー リ ン グ 工 φ 86mm ~ φ 66mm

削 孔	
R2-B1	L=26m

住所：札幌市東区中沼町127番地ほか

札幌市環境局環境事業部				1 / 1
業務名	(仮称) 北部事業予定地一般廃棄物最終処分場搬入路検討業務			
図面名	地質調査位置図			縮尺 1/2500
課長	係長	設計	調査	
				令和2年4月